

ミズダコ *Enteroctopus dofleini*

津軽海峡海域

地方名：（メス）まだこ、（オス）みずだこ、しおだこ



生態

- ①寿命：オス 4 年 5 ヶ月、メス 5 年。オスは交配後、メスは産卵、卵保護後死亡。
- ②成熟体重：オス 9.8kg 以上、メス 8.5kg 以上。メスの最小交配個体は体重 10.6kg。
- ③産卵期：青森県内での産卵は未確認。成熟状況から津軽海峡沿岸の産卵期は 3 月～5 月と推定。
- ④産卵場：岩棚に房状の卵を産み付け、ふ化までメスが保護する。
- ⑤分布：日本～北アメリカの北部太平洋岸に分布。国内では北海道から日本海側は五島列島、太平洋側は相模湾まで。
- ⑥生態：青森県では沿岸全域の水深 2m～350m 以浅の岩礁域や砂礫質の海底に生息する。
- ⑦成長：年齢形質は不明。標識放流等の結果から、成長は個体差が大きく、雌雄差はない。2 歳～5 歳に成熟体重に達する 4 グループを確認。

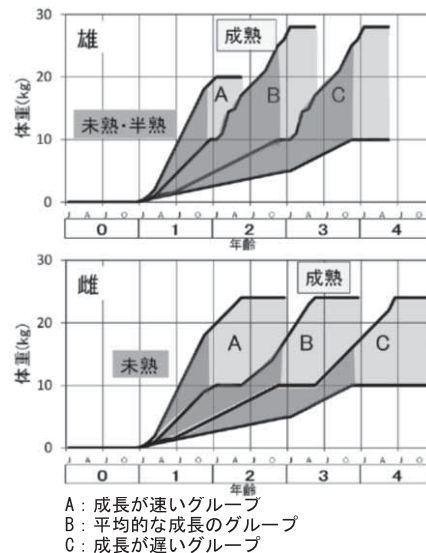


図 津軽海峡におけるミズダコの成長

出典：野呂・桜井（2012）水産増殖，60，429-433.

主な漁業

タコたる流し、タコ籠、タコ箱、底建網、刺し網などで漁獲され、主な漁場はごく沿岸から水深 80m 付近まで。太平洋、日本海では底びき網でも漁獲。

漁獲の動向と水準

津軽海峡海域での漁獲量は、1985 年までは概ね 1,000 トン以下であったが、1986 年に 1,945 トンに急増した。その後 1,000 トン～2,000 トンの間で推移したが、2010 年に減少して以来、低位水準が続いたが、2024 年は前年から微増し 651 トンとなった。

2024 年の漁獲水準は、漁獲量の最高値と最低値との間を 3 等分し、上から高位、中位、低位とすると、低位であった。

資源を上手に利用するために

- 1990 年 10 月に県漁連が主体となって小型個体の再放流、販売禁止、操業期間の制限が定められ、現在は体重 3kg 未満の再放流、禁漁期間を 7 月 1 日～10 月 31 日としている。
- ☆上記のような取組を継続することが必要である。

トピックス

- 津軽海峡で放流されたミズダコは、津軽海峡外へほとんど移動せず、また一部の個体は津軽海峡を横断し、対岸へ移動する。青森県産業技術センター水産総合研究所と北海道立総合研究機構水産研究本部との共同研究から、津軽海峡に分布するミズダコは一つの集団であると考えられている。
- 2014 年から脱出口付改良籠の実証試験を行った結果、改良籠ではミズダコ小型個体の漁獲割合が低下し、小型資源保護に繋がると考えられた（長野ら（2019），青森県のタコ籠漁業における小型個体脱出用リングの有効性の検証，水産工学，56，1，pp27～33）

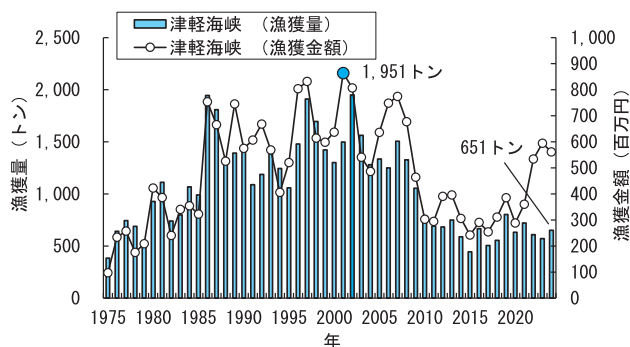


図 青森県津軽海峡海域におけるたこ類の漁獲量及び漁獲金額の推移

※ミズダコ以外のたこも含むが、津軽海峡では大半がミズダコ。

漁獲の動向



横ばい

漁獲の水準

低位